

Reader's VIEW

2018 Vol.4 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎今号の特集では、行政の施策と教育とのかかわりが分かりやすく解説されていました。とくに教育施策は成果が見えやすく、学力調査の結果だけで評価されてしまう面があります。一方で、教員は理念が先行してしまう場合があり、教員の意識と、市民の願いや行政のビジョンとの間にずれが生じやすい面もあります。それらをつなぐ教育委員会の役割を考える上で、大変参考になりました。(千葉県)

◎新教育委員会制度に移行して4年が経過しましたが、学校現場ではさほどの変化を感じていませんでした。しかし、兵庫教育大学大学院の日渡^{ひわたしまどか}教授の「課題整理」を読み、目からうろこの思いを抱きました。特に、学校教育・家庭教育・社会教育の関係性の構築とその施策の充実を図る視点が、「まちづくり」につながるという論法には脱帽しました。「ここで授業を受けさせたい」「この学校に通わせたい」「ここに住みたい」という保護者の意向は、まちづくりに結びつくのだと納得しました。(鹿児島県)

◎特集では、群馬県伊勢崎^{いせさき}市の取り組みに関心を持ちました。徳江基行教育長の「教員の経験や熱意だけに頼るのではなく、どう指導すれば、どのような力が伸びるのかを体系化することが大切」という言葉に強く共感します。働き方改革が求められる中、教員の熱意に依存する教育では高いレベルの指導を持続することは困難です。どうすればよりよい教育を継続的に提供できるかは、今後の課題だと考えます。(宮城県)

◎特集の北海道東川町^{ひがしかわ}の事例では、松岡市郎町長が先頭に立ち、教育改革を実行していることがよく分かりました。林万里^{かづと}教育長とともに「予算がない、前例がない、他の自治体ではしていない」という3つの「ない」は通用しないと、できない理由よりもできる方法を探しながら、前へ進んでいるリーダーシップが素晴らしく、どの自治体も見習うべき姿勢であると感じました。(東京都)

◎特集で紹介された個性的な取り組みは大変魅力的で、教育環境に必要な「人」「モノ」「金」をどう工面するかといった面から、大阪府枚方市の取り組みに特に関心を持ちました。行政主導の下、先導役の学校を設け、そこでの成果を広めていく方法は、後発組にとってはモデルがあるという安心感を持たせていると感じます。(兵庫県)

◎特集の「専門家からのオピニオン①」を興味深く読みました。本県でも少子化に伴い、中学校でも小規模校が増えつつあります。イギリスのフェデレーションの仕組みをうまく応用できれば、小規模校のデメリットとともに財政的な問題もクリアできるかもしれない、という可能性を感じました。(富山県)

◎特集の「専門家からのオピニオン②」は、とても興味深い内容でした。「学力が高い自治体ほど、人口の増加傾向が見られる」とありましたが、「勉強は塾で」という方針の自治体の学力調査結果が高かったりします。また、保護者の生活保護率が高い自治体では、家庭での教育力や通塾率が低く、なかなか学力が伸びないという現実もあります。少子化の中、さらに学力差が顕著になると予測され、学校現場だけでは解決しない問題もあると思いました。(大阪府)

◎連載「データで教育を読む」はいつも楽しみなコーナーです。あこがれの人がいる割合が、年齢が上がるにつれて低くなるのは残念な結果です。こんな大人になりたいとあこがれられる大人や社会になるよう、我々大人がもっと頑張らねばと思いました。それでも、高校生の男子の4位に「学校の先生」が入っていたことにほっとしました。(茨城県)

◎連載「近未来展望」にあった、ノートに「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のシールを貼るという取り組みは、情報活用のプロセスを意識化させるための有意義なツールの1つだと思います。(山口県)

編集後記

今回の特集では、新学習指導要領の柱の1つとなる「カリキュラム・マネジメント(以下、カリマネ)」を取り上げました。カリマネの捉え方は様々で、その方法も成果も多様です。今回取材した教育委員会はいずれも、学校現場の伴走者であろうとする強い思いを持ち、各校を支援されていました。カリマネの実践主体は学校ですが、その成果を最大化するためには教育委員会のサポートは欠かせません。より信頼し合えるタグを組むために、本特集が少しでも参考になれば幸いです。(久保木)

VIEW21 教育委員会版 2019 Vol.1 2019年6月24日発行/通巻第17号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 研精堂印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 二宮良太、長谷川教
 撮影協力 荒川潤、木村琢磨、谷口哲、
 鍋坂樹伸、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17